
中学生たちの春

大賀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中学生たちの春

【Nコード】

N7160A

【作者名】

大賀

【あらすじ】

南湖の好きな人が分かった幸谷は…

大きな驚き

「いつとくけど、オレ何も聞いてないよ。」

幸谷は南湖ちゃんの様子がいつもと違うと感じたのか、安心させるかのようにそう言った。

「本当に？絶対？」

「ああ」

「良かったあ」

南湖ちゃんは力つきたようにヘタツと椅子に座りこんだ。

「でも、女子がこんなに必死になるってことは……どうせ恋バナだろ？」

「まあね」

南湖ちゃんの目があたしになんでいつちやったの？と言っている。

幸谷は、あたしたちのいる机の近くに椅子を持ってきた。

顔をちよつと怪しげにして。

「んで、誰なんだよ。南湖の好きな人は」

やっぱり。聞くと思った。

「…教えない」

「いいじゃん！」

「かつ…神坂………卓也先輩………」

「ええ……マジかよ……！」

「なんでそんなに驚いてんの！？」

「…意外だったから」

口を開けたまま、ずつと驚いている。

「ねえ、本当に誰にもいつちやダメだからね！」

…何も言わない幸谷。そして、ダツと教室を飛び出していった。ポカンとするあたしと南湖ちゃん。

あたしの好きな人は…（前書き）

これは、南湖の好きな人からいきなり沙也香の好きな人の話になってしまいました。変な展開で、おかしいですが、ぜひ読んでみてください。

あたしの好きな人は…

「幸谷…どうしたの？…今、いつちゃったけど」

「…さあ」

あたしと南湖ちゃんは、幸谷の謎の行動がわからないまま、帰りのバスの中に乗り込んだ。

この学校は、バス通学なのだ。中学校から家がめちゃうくちや離れているという点もあるだ。

バスのいつもの特等席に2人して陣取り、座る。

流れていく外の景色を目で追いかけながら、あたしと南湖ちゃんの恋バナタイムが始まった！！

「ねえ、神坂先輩と同じクラスの佐藤先輩、あの人付き合ってる人いるんだってえ〜」

「マジ！？あたしあの人狙ってたのにい」

「えっ、そうだったの？知らなかった」

こうして小さい声でこんな話をするのがけっこう楽しい。でも、他の人に聞こえるかもしれないというところがちよつと…

「えっ、佐藤先輩ってあの…野球でピッチャーやってる先輩だよな？」

ほらほら！やっぱりこういう話を聞きつけて、入ってくるやつがいた 同じクラスの森^{しん}だ。まあ、それについてのって言うてしまふあたしもダメなんだけどな。

「そうそう！そのピッチャーの、佐藤^{けい}圭先輩」

「えっ！お前あの人狙ってたのか？」

「そうだったんだけどね…今の南湖ちゃんの話聞いたでしょ」

「それって、失恋っていうんじゃないの？」

「でも、ホントに好きっていうわけでもなかったし。別にいいんだ」
森は、後ろの席から少し身を乗り出した。

「で、沙也香、お前の好きな人は？」

絶対面白がつている。

「いや、いないよ」

「なんだ、つまんね の」

そう、あたしの好きな人はあんた（森）だから。なんて言えるわけ
ないじゃん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7160a/>

中学生たちの春

2010年12月2日15時19分発行